

ミニ門松を作ろう！



綾歌普及センター
井口里香

庭仕事はしばし休憩。のんびりと、木枯しに舞う木の葉を眺めるのもいいですが、ここのはひとつ、お正月に向けて門松作りにチャレンジしてみたいかが？

●門松ってどういう意味？

家の門前に立てられる門松は、歳神（五穀の神、農業の神、年間の福徳をつかさどる神）の依代（よりしろ）となるもの。つまり、これを目印にして歳神が降りてくるのです。ですから、必ずしも門前に立てなければいけないものではなく、床の間に飾ったり、庭に立てたりと地域によって立てる場所はさまざまのようです。

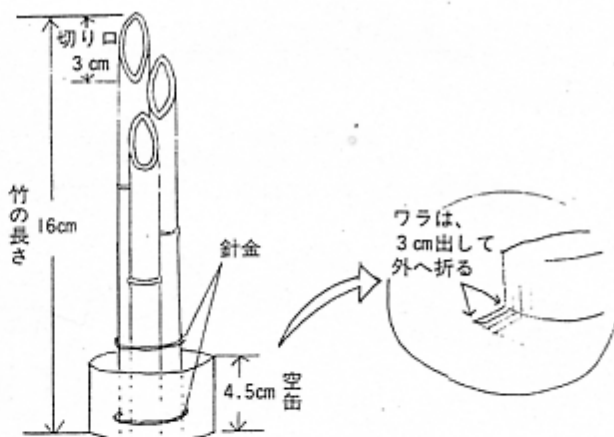
そこで今回は、簡単に作れるテール用ミニ門松の作り方をご紹介いたします。

●ミニ門松の作り方

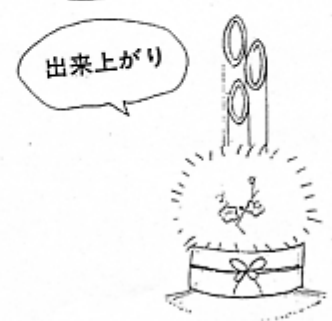
用意する材料

親指大の竹（長さ210cm）	三本
松の小枝	五〜六本
梅の花枝	一本
缶詰（さばなど）の空き缶	一缶
紅白（金銀）の水引き	三本
糸針金 3.0cm	二本
ビニールのくず	少々
ワラ（色紙でもよい）	二握り
砂土	少量

まず、長さ210cmの切り口を作った竹三本を高低差をつけて一束に



し、下から1cmと5cmの二カ所に針金で止めます。竹の高さは、一度缶の中に入れて好みの高さに印をつけて切り揃えます。次に缶の外側にのりをつけて、その上にきれいに揃えたワラを一列に並べて張り付け、型が崩れないように糸で仮留めをしておきます。のりが乾いたら、ワラの上下を切り揃えます。上は缶と同じ高さ、下は缶の底から3cm出して切り、外側に折り曲げます。そして、缶の中央に竹を立て、



根元に砂土を入れて倒れないようにします。竹を中心に、まわりに松の枝で足元を埋めます（このとき隙間ができたところにビニールのくずなどで詰めるとしっかり固定できます）。梅の枝は前面中央に挿します。梅の代用としてナンテン、ミニハボタンなどを挿しても良いでしょう。最後に、ワラに仮留めしておいた糸を取り、紅白（または金銀）の水引きを花結びにして出来上がりです。

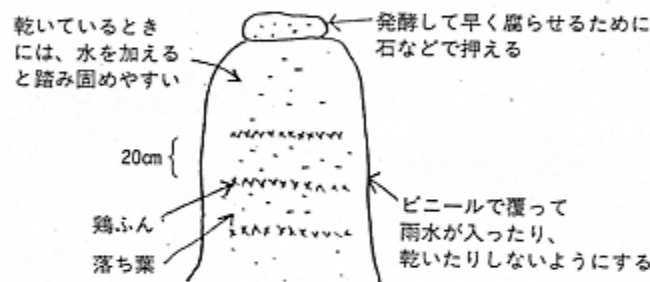
図1 ミニ門松の作り方

年末は新しい年を迎えるための掃除で忙しい時期ですが、花壇や鉢物栽培には欠かせない腐葉土を庭掃除を兼ねてつくりましょう。

材料としては、葉の堅いクヌギやナラなどの落葉樹が最適ですが、モミジやケヤキなどの柔らかい葉も十分に利用できます。しかし、マツなどの針葉樹は樹脂を多く含んでいるので避けま

す。容器には、ビニール製の大型バケツやドラム缶、木枠や堆肥づくり専用のコンポストなどを用い、この中に材料を詰め込みます。また、腐りやすくするために、乾いた落ち葉に水をかけたり、微生物の活動を促進するために鶏ふんや油粕など窒素質肥料を加えて上から石などで押さえ、ビニールで覆って雨がからないようにします。

二カ月に一回の割合で二回は



積み方

図2 腐葉土づくり

ど切り返しを行います。容積が最初の三分の一くらいに減って、手でもむと原形が崩れる程度に腐ってくれば乾かしてビニールの袋に入れ、貯蔵しておきます。花づくりもやっぱり土づくりが基本です。来年もお気に入りのお花を庭いっぱい咲かせてください。

今が見ごろ

旬の花

河江 正明

ポインセチア

十二月にはいると、街角のあちこちでジングルベルが奏でられ、なんとなくクリスマスマスの雰囲気になり込んでしまします。

こんなころの旬の花は、なんといっても「ポインセチア」が一番でしょう。

濃緑の葉に真っ赤な花色が、とても鮮やかで、この情熱的な色合いが、寒さも忙しさも、忘れさせてくれるのかも知れません。

一八二五年に、原産地のメキシコから、ポインセチアがアメリカに持ちかえり、後にヨーロッパでも普及しましたが、彼の名が英名の語源になりました。日本へは、明治の中頃に入ってきた、比較的新しい花です。

真っ赤な花弁に見える部分は、苞葉と呼ばれる葉で、赤くなるには、十五℃以上の温度下で、四〇



〜五〇日の短日が必要です。家庭でも咲かせることは可能ですが、クリスマスに合わせるとなると、加温設備が必要でしょう。

花言葉は「祝福」とされ、近々おめでたのあるひとに贈るといいのですが、別の花言葉「私の心は燃えている」に取り違えと、困ったことになりかねません。

買うときには、下葉が健全で、苞葉の傷みのないものを選び、なるべく陽の当たる暖かい場所に置き、冬場の水やりは控え目にするのがいいでしょう。